

様式第1号（第5条、第7条関係）

事業者取組計画書



2019年7月19日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 鳥取県鳥取市古市185番地

氏名 三洋製紙株式会社
 専務取締役 高橋 亨仁
 （法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第1項（第8条第4項、第9条第1項、第9条第3項）の規定により次のとおり提出します。

住所（主たる事業所の所在地）	鳥取県鳥取市古市185番地				
氏名（名称及び代表者の氏名）	三洋製紙株式会社 代表取締役社長 井川 和永				
主たる業種	14 パルプ・紙・紙加工品製造業				
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者				
計画期間	2019年4月 / ~ 2022年3月 /				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （2018）年度 / （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （2021）年度 / （二酸化炭素換算）	増減率	
	排出量（1）	87,431.6 / t	84,808.7 / t	△ 3.0 %	
	目標設定の考え方	2018年度のCO2排出量を基準とし、中長期目標として、年1%削減に設定した。			
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率
		二酸化炭素換算 生産量	357.0 t-CO2/千t	346.3 t-CO2/千t	△ 3.0 %
		二酸化炭素換算			%
		二酸化炭素換算			%
原単位の目標設定の考え方	2021年度のCO2目標排出量を2018年度の生産量で割った数値を目標とした。				
寄与的取組	取組区分	目標年度（計画）			
		実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	（売電量）	118,008 千kWh	79,965 t	
		（熱供給量）	GJ	t	
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	（購入量）		t	
	森林保全による二酸化炭素の吸収量を表すものの購入	-	-	t	
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	（購入量）		t	
削減量等合計（2）			79,965 t		

差引排出量 (1) - (2)		基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)
		87,432 t	4,844 t	△ 94.5 %
推進体制	月1回開催している省エネ会議で各部署の電力原単位、蒸気原単位の状況あるいは工場全体のエネルギー原単位を工場関係スタッフに報告、周知することおよび、省エネの手法等の紹介や省エネパトロールによる放熱ロスの削減により、エネルギー原単位の削減を推進している。			
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容	
	2019~2022年度	工場	抄紙機ドレネージシステム更新による蒸気原単位低減。	
	2019~2022年度	ボイラ	バイオマスボイラの安定稼働及び売電増加し二酸化炭素排出量を削減する。	
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	当社では、農業で雑草抑制のため使用されるポリマルチ等に代わる農用再生紙(カミマルチ)を製造しております。ポリマルチ等は石油に由来する製品であり、後処理時、焼却処分が必要となりCO2を発生しますが、カミマルチは微生物分解により土壌に還元されるため、CO2を発生しません。このカミマルチを全国に拡販することにより地球温暖化防止に貢献しています。			
特記事項				

注1 該当する□には、レ印を記入してください。

2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。

3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。

4 主たる業種には、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。

5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(生産数量、延べ床面積、走行距離等)を記入してください。

7 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用などを記入してください。